



「楽しい」から始まる 高野口の地域づくり

全国的に高齢化が進んでいます。このことは橋本市でも同様です。そんな中、これからも自分たちの地域で安心して暮らし（生活）続けられるためには、いざという時に駆けつけてくれたり、ちょっとしたお手伝いを頼めるような地域であるために、日ごろから声かけしあったり、気にかけてあったりするような地域づくりが大切です。そのため、地域づくりの基盤となる「協議体（井戸端会議）」を市内各地区に設置し、住民のみなさんが主体となって話し合い進められています。現在、9地区に協議体が設置されています。協議体の進捗状況や地域の取組みなどを紙面にてご紹介します。

ささえ愛高野口

橋本市で最初に発足しました。愛称は、「ささえ愛高野口」です。地域の方々約25人で構成され、2カ月に1回のペースで話し合いが行われており、世話人は区長会長の廣岡さんとげんきらりく教室の久保さんの2人です。

日頃から顔なじみということもあって、いつも、ワイワイにぎやかな雰囲気です。

まず、どんな地域づくりを目指すのか、高野口地区にお住まいの70歳以上の方（約1300人）の生活状況を把握しようと区長・班長さんにご協力いただき、アンケート調査を行いました。アンケート結果をもとに、何度も話し合いが行われました。

困りごとを把握できたことと併せて、手助けに協力できると答えてくれた人がたくさんいたことにあらためて高野口の『力』を感じました。

ある話し合いの日に、「日頃のちよつとした困りごとって市役所とかに相談するのって抵抗ある人おるんと違う？」ということがキッカケとなり、みんなが身近な相談役になって橋渡ししたらどうか！相談内容によってはみんなで作れることとお手伝いしてはどうか！手伝いできる人を募ろう！民生委員さんとの連携が必要！地元の商工会にも相談してはどうか！等々アイデアが出ました。



久保さん

廣岡さん

ささえ愛高野口

「お助けたいは、高野口地域で住んで
いる高齢者、高齢者世帯の方で、日ご
ろのちよっとした援助にて高野口の
お助けたい活動です！」
お助けたい活動は、ご近所
でお助けたい活動は、ご近所
でお助けたい活動は、ご近所

利用会員募集 地域のお助け活動 (案)

ささえ愛高野口 お助けたい

- 対象：高野口地域で支援を必要とする高齢者・高齢者世帯、利用するためには、会員登録が必要となります。会員登録については、右の4人の何れかにお問い合わせください。
- 内容：ゴミ出し、電球交換、話し相手など
- 費用：100円～200円 (実費はご負担してください)
- お申し込みの方は、同じ地区の住民です。内容によっては、ご依頼に添えない内容や対応出来ないこともあります。予めご了承ください。
- お申し込みできることは、事前にお伺いしている内容に限ります。

令和3年1月～2月頃までお試期間です！
令和3年4月～開始予定を目指しています！

わたしたちが応援します！

高野口いきいき健康課 (地域包括支援センター) 西32-1957
高野口市民課 (消費生活センター) 西33-1227
高野口社会福祉協議会 西33-0284

廣岡さんは「みんななどの話し合いは、前回、話し合ったことよりも半歩でも一歩でも進めていきたい。無理なことはしない。それぞれが、できることを楽しく始める。それが、継続することにつながる」と話してくれました。

今後は、活動の実施に向けて、事務局の拠点、活動の範囲、利用対象者、協力者の確保、保険、有償・無償などについて、先進地の事例を学びながら、検討を重ねていき、高野口風にアレンジしていく予定です。

「高野口らしい、支え合い活動」を目指し、話し合いが進められています。

**たすけ愛♡はしもと
(第1層協議体)の委員紹介**
(順不同敬称略)

- 乾 幸八**
(市区長連合会代表)
- 有本 忠史**
(市民生委員・児童委員協議会代表)
- 北谷 善寛**
(介護支援専門員代表)
- 岸田 昌章**
(ボランティア団体代表)
- 阪口 豊**
(市シルバー人材センター代表)
- 宮本 幸博**
(紀北川上農業協同組合代表)
- 堀川 憲一**
(市老人クラブ連合会代表)
- 堀畑 佳久**
(市介護保険施設連絡協議会代表)
- 土井 千弓**
(橋本商工会議所代表)
- 蒔田 一郎**
(高野口町商工会代表)
- 山本 光子**
(市地域ふれあいサロン代表)
- 井澗 千恵子**
(市げんきらり～自主運営教室代表)
- 山本 直子**
(地区公民館代表)
- 小倉 佐代子**
(市消費生活センター代表)



たすけ愛信太 講演会
「住民主体による移動・外出支援」

高齢者の日常生活にかかせない、移動・外出について、昨年度から「たすけ愛信太」でも話題にあがっていました。

十年以上前から既に高齢者等の外出・移動支援の活動に取り組まれていた関西STS連絡会の柿久保浩次さんを講師に招いて信太区で勉強会を開催しました。開催した一番の目的は、こういった問題は決して他人事ではなく、自分事として捉えてほしいということです。

買い物や通院に、『今』は何と
か行けていても『5年後・10年後』を考えたとき、自分自身や

近所の方は大丈夫だろうか？自身の健康や家族の支え等、継続しているだろうか？そういった視点で考えることが大切ですと語られました。

また、移動支援についての取り組み手法としては、信太区(7地域)全体で考えるよりも、一歩踏み出してやってみようという人が、最低3人いて、利用する人も、身近な人から声をかけてみて利用してもらおうほうが始めやすいと話してくれました。

次回からの、たすけ愛信太へとつないでいきたいと思えます。